

# 大気浮遊じんの放射能濃度測定結果

問合せ 生活環境課 ☎24-5231

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1m<sup>3</sup>あたりの放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点		放射能濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )		
		3/27-4/3	4/3-4/10	
小高区	川房公会堂 (川房)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.030	0.054
	金房小学校 (飯崎)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.028	0.036
	塚原公会堂 (塚原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	不検出	不検出
原町区	横川ダム (馬場)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.026	0.021
	原町保健センター (小川町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	不検出	0.025
	高平生涯学習センター (下高平)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.023	0.023
	市立総合病院 (高見町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.023	0.035
	大原公会堂 (大原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.023	0.029

測定地点		放射能濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )		
		3/27-4/3	4/3-4/10	
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.025	不検出
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	不検出	不検出

※検出限界値はおおむね0.02~0.03mBq/m<sup>3</sup>の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、データの記載がない日は、放射能濃度が検出限界値未満の値であり「放射能不検出」と判定されます。

● 渡邊正己 京都大学名誉教授  
(市放射線健康対策委員会委員長)による解説●

第107回目(2019年3月27日~4月10日)  
今回の観測結果は、セシウム137濃度が平均0.02mBq/m<sup>3</sup>で健康影響を心配することはありません。事故によって環境へ放出された放射性物質のなかで、現在、環境中に一番多く残っているものはセシウム137ですが、自然界には事故に関係なく様々な放射性物質が存在していることをご存知でしょうか？大気中に浮遊するものとしてよく知られているものがラドン222で、岩石にあるウラン238が崩壊する過程で生じ\*空気中に気体となつてでできます。我が国では、平均濃度13,000mBq/m<sup>3</sup>とされ、それによる被ばく量は年間0.48mSv程度\*\*にとされています。このことからラドン222に比べ大気浮遊じん中セシウム137の影響は無視できるほど小さいことがわかると思います。

参考までに:  
\*<https://www.env.go.jp/chemi/rhm/h27kisoshiryo/attach/201606mat1-02-43.pdf#search=%27ラドン222%27>  
\*\*<https://www.env.go.jp/chemi/rhm/kisoshiryo/attach/201510mat1s-01-6.pdf#search=%27自然放射線+種類%27>